企業経営に生かすべき儒教倫理（論語）の再考

蔡　　明　哲

現代グローバル社会において、伝統文化や思想は時代の変動や環境の変化に伴い「退陳出新」を繰り返しながら、揚棄により時代の生命力となる。儒教文化も例外ではない。儒教は東アジアの諸国で二千年以上にわたって強い影響力を持ち続けた思考・信仰の体系である。日・中・韓の企業経営にみられる伝統的な価値観や倫理観「仁、孝、忠、誠、和」に代表される「人本位」（人を以って本と為す）管理、信頼と信用に基づく調和的、協調的な人間関係、そして、集団主義の価値志向、運命共同体の企業モデルなど､いずれも儒教思想にその根源を探ることができる。儒教の｢仁｣を以って人に接し､｢忠｣を以って人を育成し、
「和」を以って貴しと為す（和為貴)、「人本位」の精髄は、現代企業経営に生かすべきものである。

私立大学の情報公開と説明責任

吉　村　宗　隆

本稿では私立大学の情報公開の意義と課題につき、財務情報を中心に検討する。そもそも事業戦略と財務は一体のものでなければならない。大学の情報公開は教学内容や運営実体を踏まえたうえで、より適切に説明責任を果たす必要がある。大学事業と会計システムの特殊性を前提に、いくつかの大学の事例を検討した上で、大学における事業戦略と財務、情報公開と説明責任の在り方についてその方向性を提示する。

ドイツ管理会計の現況について
―KostenlehreからManagement Accounting Researchへの移行―

森　本　和　義

ドイツ語圏の国々では、管理会計という学問は、長年にわたり原価計算とか内部企業会計という名の下で研究されてきた。とりわけドイツ原価計算研究は100年に及ぶ伝統を有する。しかしながら、1990年代以降、加速するアメリカ管理会計の影響下で、研究者の関心が組織の中での管理会計情報の利用へと移行するとともに、経済学に基づく数理的研究（分析的研究）がドイツで指導的な研究パラダイムを形成し始めている。本稿では、アメリカ型の管理会計研究がドイツで成立しているといえる現況について考察している。

情緒的価値がもたらす利益プレミアム

合　澤　浩　之

バブル崩壊後のデフレの進行やその後の新興国経済の台頭とグローバル化の進展により、日本企業は厳しいグローバル競争にさらされている。同時に、製品の差別化の限界によるコモ
ディティ化に伴い、グローバルレベルで激しい価格競争にさらされ、多くの日本企業は低収益にあえいでいる。このような低収益経営から脱却するため、最近では製品機能の高さによって生み出される機能的価値よりも、消費者の内面に訴えかける情緒的価値を高める取り組みが、活発に行われている。これは、別の言葉で言えば、顧客価値のイノベーションを目指した取り組みである。本稿では、情緒的価値に関する先行研究を概観しつつ、日本企業による情緒的価値を高める取り組みを紹介する。そして、情緒的価値がなぜ、機能的価値よりも高い利益をもたらすのか、その背景をマーケティングの視点から考察する。

わが国における国内観光需要の要因分析

小　川　雅　司

わが国はインバウンドツーリズムを積極的に促進しているが、地域経済効果の観点からすると、国内観光消費額のおよそ９割を占める国内宿泊旅行と国内日帰り旅行がより重要である。そこで本稿では、以上の問題意識と観光需要の促進という観点から、国内の宿泊観光需要と日帰り観光需要に関する送客側要因を計量的に分析した。その結果、有意な要因の多くは観光産業や行政にとって「外生的」であり、国内観光需要を高め、地域経済を活性化するには、関連する様々な分野の政策と有機的に連携する必要があることが示唆された。

国内に常駐する環境テロリストへの対策と今後の課題について

―和歌山県太地町における漁業組合とシーシェパードの国際紛争を事例に―

恵　木　徹　待

和歌山県太地町に「環境テロリスト」と称される国際環境団体シー・シェパード（以下、SSと記す。）が長期滞在しながら現地の捕鯨活動を妨害している。それに対して我が国はこれまでのところ効果的な対策を取れていない。

その要因には従来の我が国特有のテロ対策における認識と対応の甘さに加え、地場産業の保護を優先してきため、国家の安全保障という大きな視点で本件を考えることができなかったこと、南極海におけるSSによる過激な妨害活動と本件をリンクさせてこなかったことなどが挙げられる。

今後の対応を見誤れば我が国がテロリスト安住の地として認識され、他のテロ活動を増殖させる事態に陥る他、国際社会からの信用も低下し、新たな国益を損なう恐れがあり、本件は日本の安全保障政策の試金石として極めて重要である。

「倭の五王」陵墓としての百舌鳥・古市古墳群
―世界遺産への登録を目指して―

坪　井　恒　彦

漢都東遷に関する一考察

安　川　俊　介